

平成 26年度学力充実プラン推進事業

# 豊明市 学力充実プラン の構築と実践

授業研究

Lesson Study

学習環境

Learning Environments

人的環境

Human Environments

豊明市教育委員会



## はじめに

平成 25年度に実施した全国学力学習状況調査の本市の結果によると、「学校に行くのは楽しいと思えますか」という質問に対し、「そう思う（どちらかといえばそう思うを含む）」と回答している小学校6年生が81.6%、「そう思わない（どちらかといえばそう思わないを含む）」は18.2%います。それに対し、中学校3年生はそれぞれ79%、21%となり、「そう思わない」が若干増えています。

また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対し、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答している小学校6年生が75%、「当てはまらない（どちらかといえば当てはまらない）」25%、中学校3年生はそれぞれ68.5%、30.9%となり、「当てはまる」が若干減り、「当てはまらない」が5%増えています。さらに、「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対しては、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答している小学校6年生が76.2%、「当てはまらない（どちらかといえば当てはまらない）」23.4%、中学校3年生はそれぞれ73.5%、25.6%となり、「当てはまる」が若干減り、「当てはまらない」が若干増えています。つまり、調査結果から「学年が上がるごとに学校生活に対する満足度や、授業に対する理解度が低下するという傾向がある」ということが分かりました。

児童生徒が学校で過ごすほとんどの時間が「授業」であることを考えると、「学年が上がるにつれて授業の内容が分からなくなると、学校へ行くのが楽しくなくなる」という傾向はあるようです。この点は本市の児童生徒に限ったことではなく、全国、県の数字を比べてみても同様な結果が出ています。

児童生徒が「学級や学校が楽しくない」「居心地がよくない」と、落ちて集中して学習したり、学校生活を前向きに取り組んだりすることが難しくなります。そうなると、ますます授業の内容がわからなくなり、学校や学級での生活に意味を見出せなくなってしまうという“負の連鎖”が生まれます。（図1）

つまり、学力を充実させるためには、「指導法や授業の改善」だけではなく、児童生徒の心の成長を促す学びの集団としての学級・学校づくりとして「学習環境」「人的環境」の改善が図られることで、児童生徒が「授業がわかるから集中できる」「仲間や教師と一緒に集中して学習できる」「学級や学校が楽しいから授業が楽しい」という“正の連鎖”を生み出すことが重要であると考えました。（図2）

こうした“正の連鎖”と「児童生徒の学ぶ意欲（＝学ぼうとする力）」の関連性については、さまざまな研究（鹿毛 2007<sup>1)</sup>、真田 2013<sup>2)</sup>）でも指摘されています。

以上のような現状を踏まえ、豊明市は、平成 26年度に県から「学力充実プラン推進事業」の研究委嘱を受け、豊明市主任研究と共同して「豊明市学力充実プラン」の構築と実践を進めることにしました。

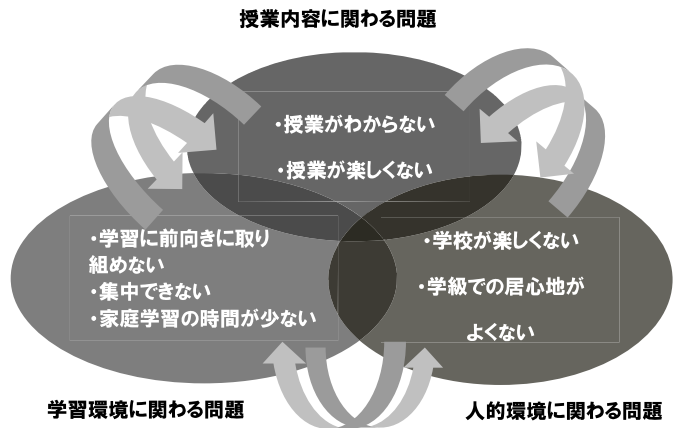


図1 本市における学力に関わる問題

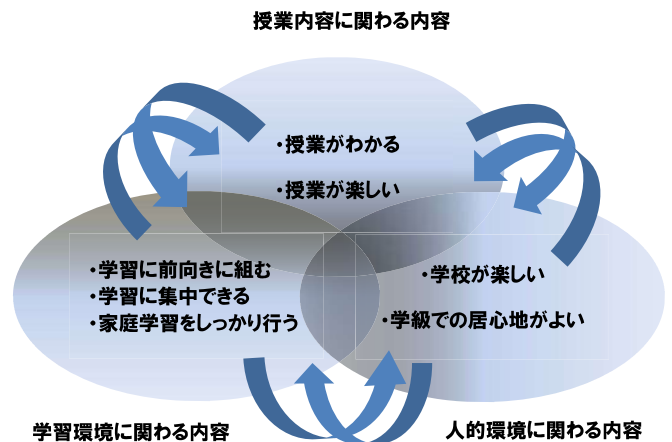


図2 学力を充実するための“正の連鎖”

### 注記

- 1) 鹿毛雅浩『子どもの姿に学ぶ教師 「学ぶ意欲」と「教育的瞬間」』教育出版、2007
- 2) 真田穰人、浅川潔司、佐々木聡、貴村亮太「児童の学習意欲の形成に関する学校心理学的研究—学習規律と学級適応感との関連について—」『兵庫教育大学教育実践学論集』第15号、pp.27-38, 2014

## 研究構想図

本市における学力充実プランを構築するために、市主任研究推進部と連携して検討した結果、3つの「授業研究部会」「学習環境部会」「人的環境部会」の3つの部会を立ち上げ、「豊明市学力充実プラン」を図3のように設定しました。

## 「確かな学力」とは

文科省によると、「学力」とは「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの」「思考力、判断力、表現力、問題解決能力、課題発見能力、学び方、知識・技能、学ぶ意欲」のことです。最終的な目標は「生きる力」の育成としています。

本研究では「学ぶ意欲」を確かな学力の重要な要素と捉え、児童生徒の学力充実の重要な基盤であると考えています。

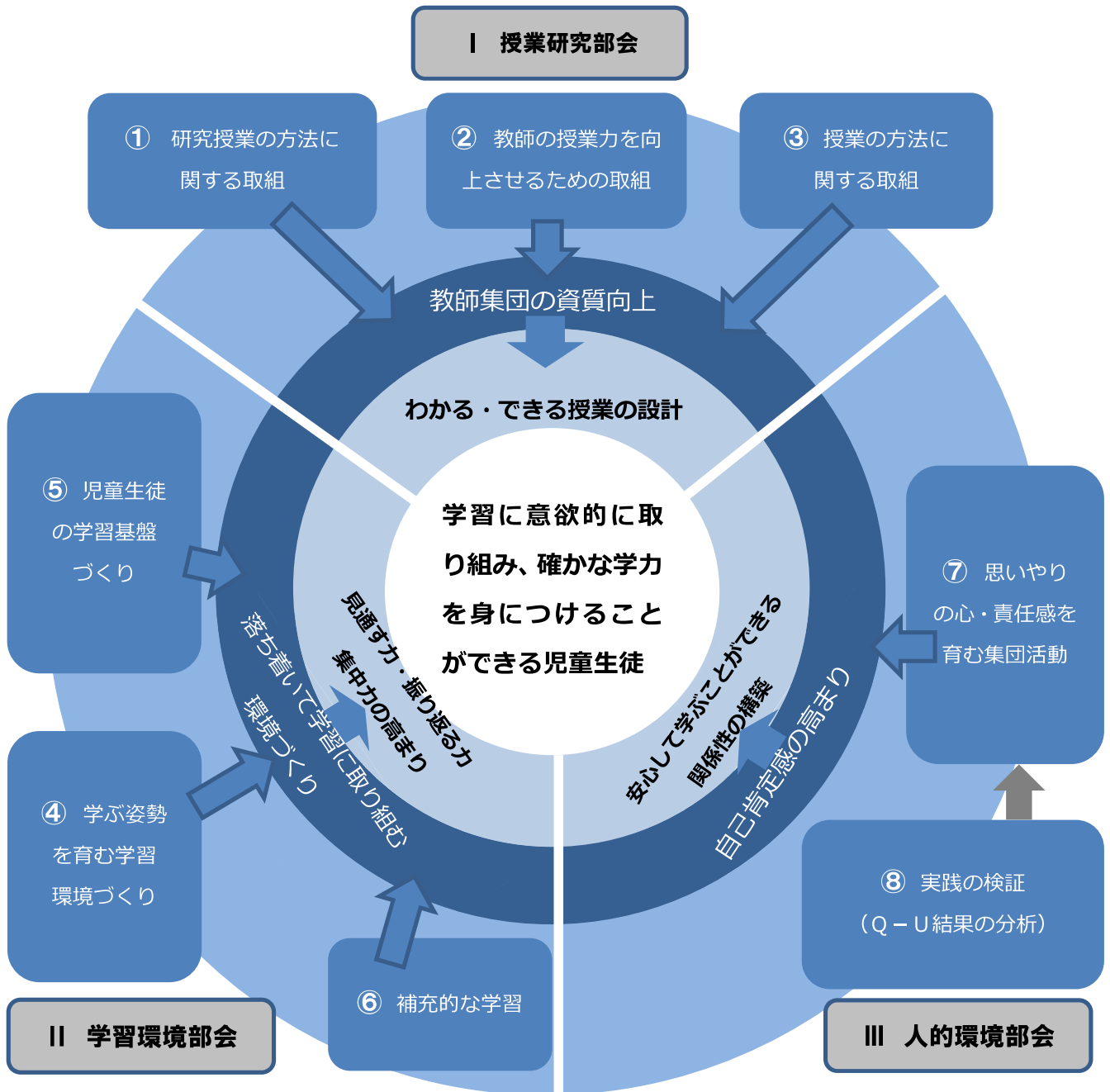


図3 豊明市学力充実プランの研究構想図

# I 授業研究

## (1) 各学校の校内現職教育との関連性

豊明市学力充実プランは主任研究と連携し進めているため、各学校の現職教育と連動しています。教師の資質向上を図りながら「わかる・できる授業の設計」をし、学習に意欲的に取り組み、確かな学力を身につけることができる児童生徒の育成を図りました。

平成26年度の市内小中学校現職教育のテーマは以下のとおりです。

豊明小	人との関わりを大切にし、心豊かに活動する児童の育成
栄小	理解力・思考力・表現力を培うための言語活動の充実
中央小	国語科における言語活動の充実を図りながら、基礎・基本を定着させる授業の開発
沓掛小	根拠を交えて自分の考えを表現する学習指導のあり方
双峰小	確かな学力をもった児童の育成 ～基礎・基本の確実な定着をめざして～
大宮小	意欲的に学習に取り組める子の育成 ～書くことを通して思考力を高める～
唐竹小	よく考え、主体的に学ぼうとする児童の育成 ～思考のつながりを大切に学習活動の展開を通して～
三崎小	自ら学び自ら考える児童の育成 ～言語活動を充実させる単元構成・授業展開の工夫を通して～
館小	できる喜び、わかる喜びを実感させる授業の創造 ～「授業改善」を図り、児童の学力向上を目指す～
豊明中	確かな学力を身に付けさせる教科指導 ～相手の言葉をしっかり聴き、自分の考えを正しく伝える活動を通して～
栄中	自尊感情を大切にする魅力ある授業の構築 ～言語活動の充実を通して～
沓掛中	理解し、考え、表現することができる授業の工夫 ～言語活動の充実を通して～

## (2) 教師集団の資質向上～わかる・できる授業の設計を目指して～

### ① 研究授業の方法に関する取組

#### ア 栄小の実践「学年共同で単元を計画した研究授業の実施」

同学年の担任が集まり、単元構想を練り上げ、互いの授業を見合うことで成果と改善点を確認するという取組を行いました。学年での研究協議がより深まりのある内容になり、参加者にとって有意義なものになりました。

#### イ 唐竹小の実践「座席表の活用」

指導者が座席表に「本時の目標に到達させるためのその児童に必要な支援」「本時の学習活動に関する児童個々の実態」を書き込むこ

とで、児童の実態をつかみながら、効果的に支援することができるようにしました。研究授業では、座席表をもとに児童の様子を詳細に観察することができました。また、研究授業後の研究協議では、授業での児童の様子を具体的に上げながら、深まりのある話し合いができました。この座席表は、児童の実態把握のために、普段の授業でも活用されています。

### ② 教師の授業力向上のための取組

#### ア 授業力向上研修（市教委主催）

市では、毎年夏季休業中、教育コンサルタントの大西貞憲先生を講師にお招きして「授業力向上研修」を実施しています。研修では、大西先生からの講義を受けたあと、代表の3・4名が考えた授業をグループごとで検討し、模擬授業を行います。平成26年度は、大西先生から「全員が参加できる学級を目指して～学級づくりの基本を考える～」というテーマで講義をしていただきました。

#### イ 館小の実践「教師自身が授業の基礎基本を身につける」

授業改善の視点を、児童が「何を学ぶか」「何を学んだか」を実感できるように授業のめあてを明確にし、本時のまとめや振り返りをする時間を必ずとるようにしました。また、「はじめ（導入）」「中（展開）」「おわり（まとめ）」という流れができるように授業を設計する、板書計画・発問・助言・机間指導等を工夫して児童の学びを促すように支援する、など授業の基礎基本となる部分を大切に指導ができるようにしました。

#### ウ 沓掛中の実践「力量向上を目指す自主参加の現職教育」

若手教員および希望者を対象とした研修会で、参加教員が交代で講師となり実施しました。内容は授業参観の研修、教材研究に関わる研修等、各教員の得意分野を活かした内容で多岐にわたって行われています。実施内容や実施日の調整が必要ですが、若手教員を中心に熱心に研修が行われています。

### ③ 授業の方法に関する取組

#### ア 沓掛中の実践「授業のルール・教師の心構えチェックカード」

夏季休業中の現職教育で、「授業のルール」について取り上げ、全職員が共通して指導すべき内容についてワークショップ形式で確認しました。その後、話し合った内容をもとに、「学習マナーを意識して指導できたか」「授業のねらいを明確に提示できたか」「発問や説明は適切だったか」「板書は工夫できたか」等、週に1回「教師の心構えチェックカード」を使って自己評価をします。「次の自分へ」という欄には自分へのメッセージを書きこみ、良かったことや反省点を確認します。

#### イ 唐竹小の実践「学習に臨む心構えの醸成」

児童が「今から授業が始まる」という気持ちの切り替えができるようにするために、全学年で以下の「型」を実施しました。

- ・学習用具の準備（チャイムの鳴り終わる前に）
- ・「姿勢を正しましょう」「お願いします」という号令
- ・短冊黒板による学習課題の掲示

その後、定期的に教師自身がセルフチェックし、実態を確認しながら修正できるようにしました。

## Ⅱ 学習環境

### (1) 「当たり前」のことが「当たり前」にできる」学習環境づくり

学習環境・学習規律・学習ルールやマナーが整っていることは、児童生徒が安心して授業に参加し、意欲的に学ぶための重要な視点です。「学習環境部会」は、この「当たり前」のことが「当たり前」にできる」という学習指導の原点に立ち戻り、「どのような環境を整えていくか」を再確認、再検討することになりました。

### (2) 落ち着いて学習に取り組む環境づくり

～見通す力・振り返る力・集中力の高まり～

#### ④ 学ぶ姿勢を育む学習環境

ア 学習規律としての「授業の始めと終わりのあいさつ」の徹底

##### 小学校の例

「おながいします」「ありがとうございました」を、全校統一して大きな声で行う

##### 中学校の例

学級委員：「起立」（全員立ち、椅子をしまう）

「気をつけ」（教師が一步前へ下がったら）「礼」

教師：生徒の礼の完了を見届けてから礼

学級委員：教師の礼が終わったら（目を合わせてから）「着席」

イ 学習ルール・マナーの徹底

##### 小学校の例

・聞き方と話し方のルール・マナーの徹底

聞き方名人「おはし」

お おしまいまで

は 話す人を見て

し しつもんを考えて

話し方名人「おはし」

お 大きな声で

は はやさを考えて

し しせいよく

##### 中学校の例

・「学習のてびき」によるルール・マナーの徹底（図4）



図4 学習のてびき（豊明中）

### ⑤ 児童生徒の学習基盤づくり

ア 学習環境の整備

#### 小学校の例（低学年向け）

・話形、発表内容（観察する視点）の徹底（掲示して示す）

はっぴょうのしかた

・「はい」とへんじ

・みんなにきこえるこえ

「～です。」

「わたしは～とおもいます。」

（それは・・・だからです。）

「わたしも〇〇さんとおなじで～とおもいます。」

「〇〇さんとちがつて～とおもいます。」

かんさつ名人

「おさかなみにいく」

お おおきき、おと

さ さわったかんじ

か かたち・かず

な ながさ

み みたこと

に におい

い いろ

く くわしく

・机やロッカーの中の位置、整理整頓

・学習のきまり、生活のきまりの拡大掲示

・板書の活用（課題を示す、思考の流れを整理する、学習内容が確認できる、児童のノートにまとめやすいように、等）

### ⑥ 補充的な学習内容

#### 小学校の例

・朝学習（各学年で計画。国語、算数の基礎基本的な内容を実施。週1回読書タイムを実施。）

・家庭学習の習慣化

・夏季学習補充（夏季休業中）

補充コース（担任が教材を準備）

自学コース（参加児童が自分で学習教材を準備）

#### 中学校の例

・朝学習（S T前の10分間）

・テスト週間中の質問タイム（生徒からの質問に答える）

・夏休み学習会（3日間、既習内容の補充）

・家庭学習（家庭での学習習慣を身に付けさせるために、教科担任が計画的に準備して毎日実施）

・「家庭学習の進め方」の配付（図5）

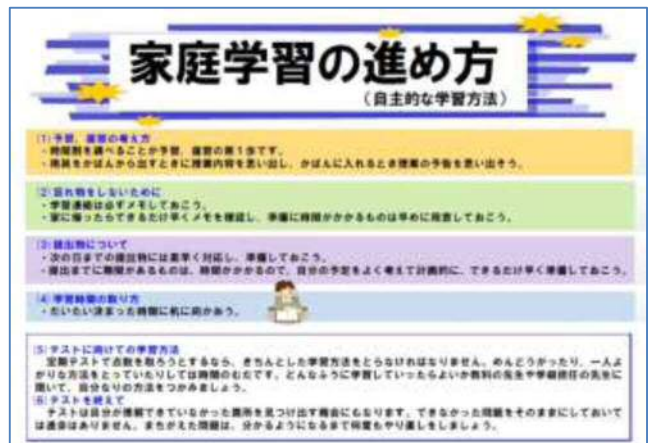


図5 家庭学習の進め方（豊明中）

### Ⅲ 人的環境

#### (1) 多様な関係性の中で学びを促す

本市の学力充実プランは、「授業研究」「学習環境」を充実させたり整備したりするだけでなく、児童生徒が毎日生活をともにする仲間や教師との関係性が個々の学びを支えていると考えます。このことは、これまで「よりよい授業づくりはよりよい学級づくりと両輪で」と語られてきていることと繋がります。とりわけ、人間関係づくりをする場が確実に減少している今の児童生徒にとって、学校での多様な他者との関わり合いは、貴重な生きた経験の場、学びの場となります。

児童生徒は、授業や学校生活での関わり合いの中で、「あの子はそう考えるんだ。」「私はこう思う。」と思考を広げたり、相手の立場を理解して思いやったり、周りから認められたり、励まされたりして自身の存在を確認したりします。こうした関わり合いをとおして、児童生徒は「仲間と学びたい」と意欲的に学習に取り組んでいくと考えます。

#### (2) 自尊感情の高まり～安心して学ぶことができる関係性の構築に向けて～

##### ⑦ 思いやりの心・責任感を育む集団活動

###### ア 縦割り活動の活性化

大宮小では、異学年集団による縦割り活動は、『みやぼんズ』と呼ばれています。縦割り班の活動内容は「縦割り清掃」、「ゲーム集会」、「運動会の応援」、「綱引き大会」等です。

双峰小での縦割り班は『やまびこグループ』と呼ばれており、大宮小の形と同様に実施されています。活動内容は、高学年が絵本の読み聞かせをする「やまびこ読書」、グループごとに遊びを決める「やまびこ遊び」、「やまびこ清掃」等です。

豊明小での縦割り班の活動は、『なかよし活動』と呼ばれ、チームごとに動物の名前が決められています。活動内容は、高学年がリードして遊びを決める「なかよし遊び」、「なかよし清掃」等です。

栄中での縦割り班の活動は、体育大会で行われました。全生徒を6ブロックに編制し、ブロック対抗で競い合いました。活動内容は「応援団の練習」「応援旗の作成」「綱引き」です。

###### イ 自己肯定感を高める学級活動・道徳授業実践

児童生徒が学級や学校の仲間から「認められている」「受け入れられている」と実感できるような場を、学級活動や道徳の授業の中に取り入れています。

学級活動としては、学級全員で1枚の絵をつくりあげるグループワークトレーニング「友だちのよいところをみつけよう」(大宮小)、卵の絵を半分にしてぴったり合った人と質問し合うグループエンカウンター「運命の人をさがせ」(双峰小)等に取り組み、学級内での人間関係が良好となるようにしました。

道徳の時間としては、「自分らしさを発揮して～和也らしい花」の実践で、児童が自分のよさに気づき、自分自身を正しく知ることは、自分らしさを発揮し、充実した生き方について考えさせました。授業の最後に、友だちから児童のよさを書いた「言葉のプレゼントカード」を交換させたところ、「自分のよさをこれからも大切にしたい」「自分のよいところを書いてもらえてうれしい」という児童の声がありました。

#### (3) 成果と課題

多様な人間関係を構築する取り組みを、各学校で「縦割り班」「学級活動」「道徳の時間」等で実施してきました。その成果を、市で年間6・11月の2回、小学校3～6年、中学校全学年で実施したQ-Uの結果を以下のように分析しました。

豊明小、双峰小、大宮小、3小学校の「学級生活満足群」は、6月が48%、11月が50%と増加しました。全国平均は11月が40%であるため、全国より10%上回りました。逆に、「学校生活不満足群」が6月は21%、11月は16%と減少しています。(図6)

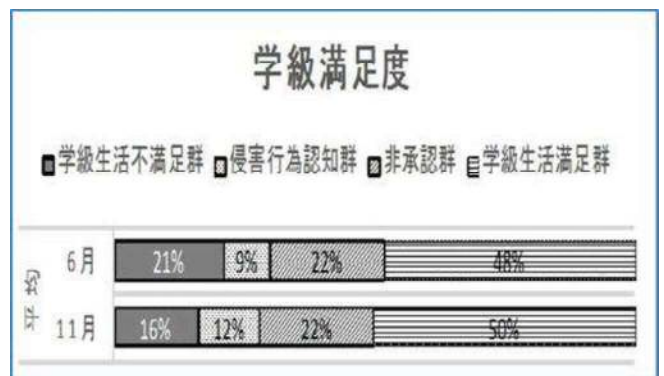


図6 3小学校のQ-U結果

つまり、縦割り活動、学級活動、道徳の時間等の取組が、児童の学級生活の満足度を高めることに影響を与えていると考えられます。

課題としては、図6の「侵害行為認知群」が6月は9%、11月は12%と増加している点です。2学期に、気持ちのすれ違い等が原因となって、学級内の問題が顕在化したためであると考えます。

この点については、ある高学年の自己中心的な児童が、縦割り班での活動を通して低学年と関わり合う中で、年上としての自覚が生まれたという事例があります。この児童のQ-Uの結果を見ると、「学級満足度」の承認得点が15から17に上がり、非侵害得点が13から12に下がりました。また、学校生活意欲も、友だち関係が7から11へと変化しました。以上のことから、人的環境を豊かにすることで、児童生徒が自己肯定感を高め、自らのよさや可能性を発揮できるようになるということがいえます。そして、互いのよさを認め合い、信頼関係で結ばれた集団の一員として活躍できるようになるのです。

こうした人的環境を充実させる取組を進めていくことで、児童生徒が学級や学校で生活することへの安心感や信頼感をしっかりともち、意欲的に授業に参加し、学習に落ち着いて取り組むことができるようになると考えます。

## 今後の課題

### 今後の課題

#### 「授業研究」「学習環境」「人的環境」の3つはどのように関係し合い、効果を上げていくのか

研究構想図で、「授業研究」「学習環境」「人的環境」の3つの各部会から出ている矢印は、そのほとんどが中心の「目指す児童生徒像」へと向かっています。しかし、研究を進めていく中で、「授業研究をより深めていくためには、学習環境や学習規律を考えていく必要がある」「Q-Uの結果から児童生徒の学級への関わり方を分析することで、授業における児童生徒の発言の取り上げ方や支援を考えられる」というように、各部の枠を越えて複雑に絡み合っていることを改めて実感しました。3つの各部がどのように関わり合い、どのように有効性を生み出しながら、「学習に意欲的に取り組み、確かな学力を身につけることができる児童生徒」の育成につながっていくかは、今後の大きな課題です。まずは、「何のためにその手立てをとるのか」という目的の明確化と、「それぞれの手立てがどのような相乗効果をもたらすのか」という効果の分析をすることが重要であると考えます。

#### 各取り組みを徹底させること、継続させることの大切さと難しさをもどのように乗り越えていくのか

今回、市内の学習環境部会の学校が、学習規律の確立や、学習環境の整備を重点目標に掲げ、年間を通して取り組んできました。その取組については、一定の成果を出してきているものの、徹底させたり、継続させたりすることは、難しい側面が大いにありました。「当たり前」のことが当たり前ができる」ということは、教師間の共通理解を含め、かなりの手間や時間をかけて検討をしていかなければなりません。

児童生徒が安心して学校生活を送り、意欲的に学ぶことができるようにするために、「学習規律・学習ルールやマナーを重視する」「授業研究の内容を深める」「学級活動や縦割り班の活動を充実させる」という目標を、全職員で共通に理解し、一つ一つ取り組んでいくことが重要です。この「当たり前」のことを、今回の研究をとおして改めて考えさせられました。

## おわりに

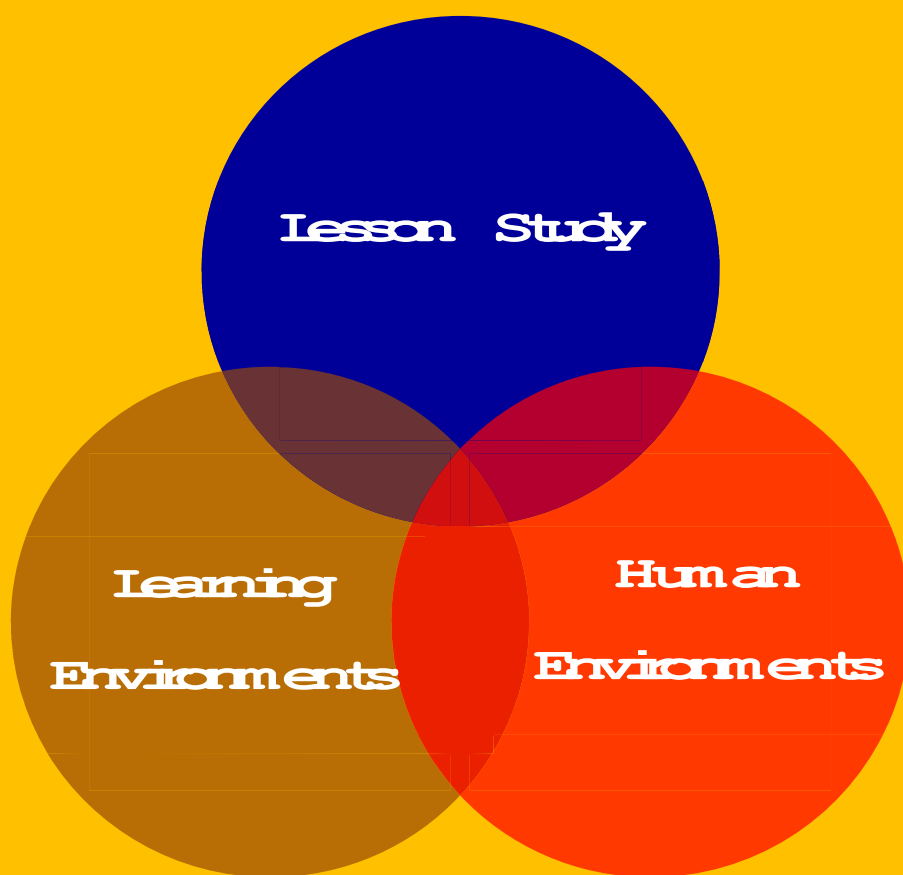
平成 26年度、豊明市が学力充実プラン推進事業の委託を受け、この1年間、主任研究と合同で研究を進めてきました。

今回の研究で立てた3つの柱である「授業研究」「学習環境」「人的環境」は、改めて考えれば、どの教師も日々かなりのエネルギーを費やして取り組んでいる内容です。この3つの柱を基本としながらも、粘り強く継続していくためには、教師個々の力がどうしても必要となります。つまり、「豊明市学力充実プラン」を単なる理論としてとらえるのではなく、より効果的に動かし「生きたもの」にしていくのは、児童生徒と向き合っている教師個々の情熱と創造力です。そして、「チーム学校」としての教師集団の協力体制が大切になります。

さらに、今回の研究をとおして、市内12校の協力体制が何よりも重要であることに改めて気づかされました。これまで、「授業研究」「学習環境」「人的環境」の3つの部分について、各学校は独自に進めていましたが、研究を進める中で、個々の学校の状況を知ることができ、「いい取り組みをしているね」「うちの学校でもぜひ取り入れたい」等、少しずつ「チーム豊明」としての輪が広がっていきました。

豊明市の児童生徒が、学校で、学級で、授業で生き生きと学び、生きる力を高めていくことを願い、私たちはこれからも「チーム豊明」として研究と実践を継続していきたいと思えます。





平成 26年度学力充実プラン推進事業  
豊明市 学力充実プランの構築と実践

平成 27年 2月発行 豊明市教育委員会

